

# 品種別胴割粒発生条件と対策

## 1 はじめに

近年、水稻の登熟期が高温で胴割粒が発生しやすい条件となっています。ここで、ハナエチゼン、コシヒカリ、あきさかりにおける胴割粒が発生しやすい条件について明らかにするとともに、その発生防止対策について紹介します。



写真1 胴割粒

## 2 技術内容

### 1) 胴割粒の発生しやすい条件と対策

#### ア) ハナエチゼン

出穂後20日間の平均気温が29℃を上回ると胴割粒が多くなります(図1)。この気温が高い場合は水管理に注意し、適期刈取りに努めることで胴割粒の多発を防ぐことができます。

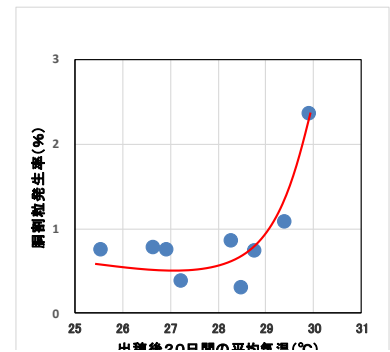


図1 出穂後20日間の平均気温と胴割粒発生率の関係

#### イ) コシヒカリおよびあきさかり

登熟歩合が悪い年に胴割粒が多くなります(図1)。登熟歩合は籾数や穂数と相関があるので、コシヒカリでは穂数を400本程度まで、あきさかりでは600本程度までとすることで胴割粒の発生を5%以下に防ぐことができます(図2、3、4)。

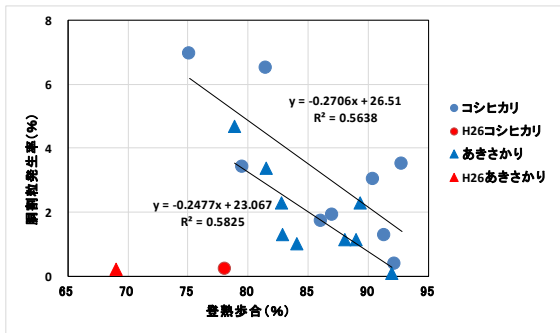


図1 籾数と登熟歩合の関係

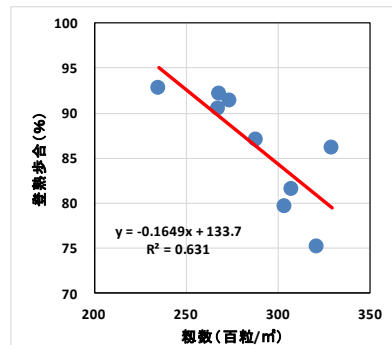


図2 籾数と登熟歩合の関係(コシヒカリ)

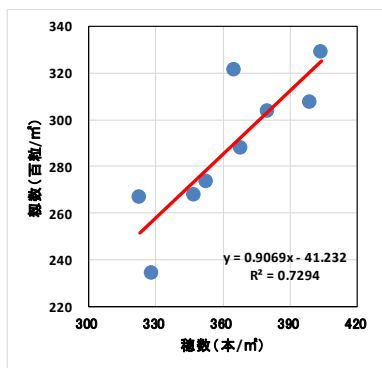


図3 穂数と籾数の関係

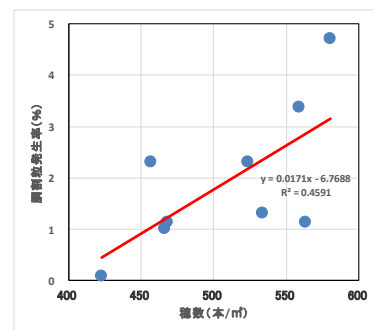


図4 穂数と胴割粒発生率の関係